

「第1回国有林モニター勉強会」を開催

四万十森林管理署管内の国有林において、国有林モニター勉強会を開催しました。

【詳細は 2 頁】



高性能林業機械プロセッサ作業状況の見学

「第一回国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整課〉

七月一日、高知県中土佐町にある四万十森林管理署管内の国有林において、平成二五年度第一回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は好天に恵まれ、四国四県から国有林モニターの方八名が参加されました。



モニター勉強会開会式

開会にあたり井上業務管理官から「実際に森林・林業の状況を見て感じていただき、外部からの目線で意見等を伺いたい。また、この勉強会で国有林の取組について理解を深めていただ

きたい。」との挨拶がありました。

最初の見学地は、中土佐町の国有林を眺望できる箇所において、複層林造成箇

所や魚つき保安林等、周辺国有林の特徴についての説明を行いました。

その後、間伐事業実施箇所へ移動し、森林整備事業の概要、間伐の重要性等の説明を行い、高性能林業機械のプロセッサが実際に稼働しているところを見学しました。

今回の勉強会に参加した



周辺国有林の特徴の説明

モニターの方々は、複層林施業等により多様で健全な森林へ誘導していく森林整備や、人工林の間伐事業箇所における高性能林業機械や間伐材の活用取組等、実際に国有林に足を運んだ

ことにより理解を深められた様子でした。当日は大変暑い中でしたが、説明に熱心に聞き入っておられ、活発に質問や意見を述べられていました。

各地のたより



奇跡の出産立ち会い!?
「土壌生物がくれた感動」
「ふれあい推進センター」

まず、前回学習した「森林のはたらき」の復習を兼ね、「治山模型を使った水の浸透実験」を行いました。

七月九日、高知県宿毛市小筑紫小学校五年生一二名を対象に「治山模型を使った水の浸透実験」と「土壌にすむ生物」の出前授業を行いました。

生徒は、二班に分かれ、「森林のある山」と「森林のない山」に雨を降らせて、水の流れ方や土壌を通じて出てくる水の濁り具合の違いなどを観察しました。

どんなに雨を降らせても
変わらない「森林のある
山」に対し、「森林のない
山」では家を巻き込みなが
ら土砂がどんどん流された
り、いつまでも濁った水が
出てくることに驚き、「森
林のはたらき」を実感して
いました。



ダンゴムシの出産を
見守る子どもたち

続いての「土壌にすむ生
物」の学習では思わぬ奇跡
が舞い降りました。いつも
の通り一ヶ月前に埋設して
おいた「野菜」「枯葉」等
の観察を終え、校庭で採取
した土壌生物を顕微鏡で観
察していると、「このダン
ゴムシ、もうすぐ子どもが
産まれるよ。」との声。こ
の時は、「もうすぐ」がま
さか「今」とは思いません
でしたが、「出てくる、出
てくる」と子どもたちの驚
嘆の声に、あわてて電子顕
微鏡の映像をスクリーンに
投影すると、ひっくり返っ
たダンゴムシのお腹で白い
物体がモゾモゾ。
お母さんダンゴムシは、
お腹を曲げたり伸ばした
り、一生懸命赤ちゃんダン
ゴムシを押し出そうとして
いました。それを見た子ど
もたちは、「頑張れ！、頑
張れ！、ミサコ（なぜミサ
コ？）」「赤ちゃん、もう
ちよつと」と食い入るよ
うに画面に向かって応援し
ていました。ダンゴムシの
お腹には二〇匹ほどの赤
ちやんがいますが、一匹産
むのに五分ほどもかかりま
す。

観察終了時刻が来ても
「お願い、あと五分」と熱
い眼差し。このような瞬間
に立ち会うことは滅多にな
いことなので、出産を見守
ることにしました。

このライブ出産で、昆虫
も苦労して子どもを産むこ
と、ダンゴムシの赤ちゃん
は、産まれた瞬間から動き

回れること、そして何より
生命の神秘を学んでくれた
ようです。

後日届いた感想文では、
「ダンゴムシの出産」に感
動した様子を一生懸命伝え
てくれていました。

災害を防ぐために
最先端技術と森林の力
ふれあい推進センター

七月一日、高知県四万
十市立後川中学校全校生
徒一九名を対象に森林教
室を行いました。

同校は、本年度防災指
定校となっており、一日
から二日間にわたり防災に
ついて学ぶと共に非常事態

に備えた宿泊訓練をするこ
とから、学校から「今の山」

山川海のつながりについて



において「森林の持つ防災
機能」や「山川海のつな
がり」を子どもたちに伝
えてほしいと依頼があり
ました。

「今の山」は航空局のA
RSA（航空路監視レー
ダー）や航空自衛隊の駐屯
地が設置されており、空の
災害を守る最先端技術の集
まる山です。

まず、ハイテク防災に
貢献する「今の山」を紹

介し、縁の下の力持ち「森林」の持つ防災力や「山川海のつながり」について林内を散策しながら説明しました。

「今の山」の頂上から登山道を下りながら一時間ほどの体験学習でしたが、アスファルトを歩く感覚との違い、炎天下の外と違って涼しい林内など防災だけでなく「森林の働き」も実感していました。

この後は、高知県土佐清水市の竜串海岸で「海の学習」とのことでしたが、美しい海を見て、「今の山」で学習した「山川海のつながり」について再確認してくれたことでしょう。

「二校で木工クラフト教室」 〈ふれあい推進センター〉



七月一日、土佐清水市立中浜小学校で本年度初めて全校生徒二九名を対象に、七月二日、松野町立松野西小学校で本年度三回目の四年生二五名を対象に木工クラフト教室をそれぞれ行いました。

両校とも木工クラフトに入る前に、「木材の特徴」と題して、「大昔から木は生活の道具として使われてきたこと。」「木は方向によって強さに違いがあること。」「木はその特徴を生かしているいろいろな物に使われていること。」など学習し

ました。

その後、土佐清水市立中浜小学校の一年生から四年生までは、事前に各パーツに加工したヤマザクラの小枝などを使って『コロコロゲーム』及び『熊のストラップ』等を作製しました。

また、同校の五、六年生



木工クラフト教室

(中浜小学校)

木工クラフト教室 (松野西小学校)



と松野町立松野西小学校の四年生は、自分の想像力を生かし、鋸やナイフを使いヤマザクラの小枝等を加工して世界で一つだけの作品を作製しました。

大半の子どもは、鋸をあまり使用した事が無く、最初は緊張していましたが、

鋸を引く時の力加減などを教えるとすぐに覚え、次々と太さが違う小枝を一定の幅に切り揃えていました。どの子も真剣な表情で取り組みんでいました。子どもたちは完成した作品を見せ合って、満足そうな表情を浮かべていたのが印象的でした。

知ってびっくり、森林 や土壌生物のはたらき 〈ふれあい推進センター〉



六月二十八日、土佐清水市立清水小学校五年生五六名を対象に「森林のはたらき」と「土壌にすむ生物」の出席授業を行いました。

今回は、これまでにない大人数であったため、一時

間半という短時間で子どもたち一人ひとりが十分に観察や実習ができるか不安でしたが、みんな積極的に発言したり、きびきびと行動してくれたので、スムーズ

初めは「森林」に、「森」

とを知り、森林、山の潜在

に授業を進めることができました。

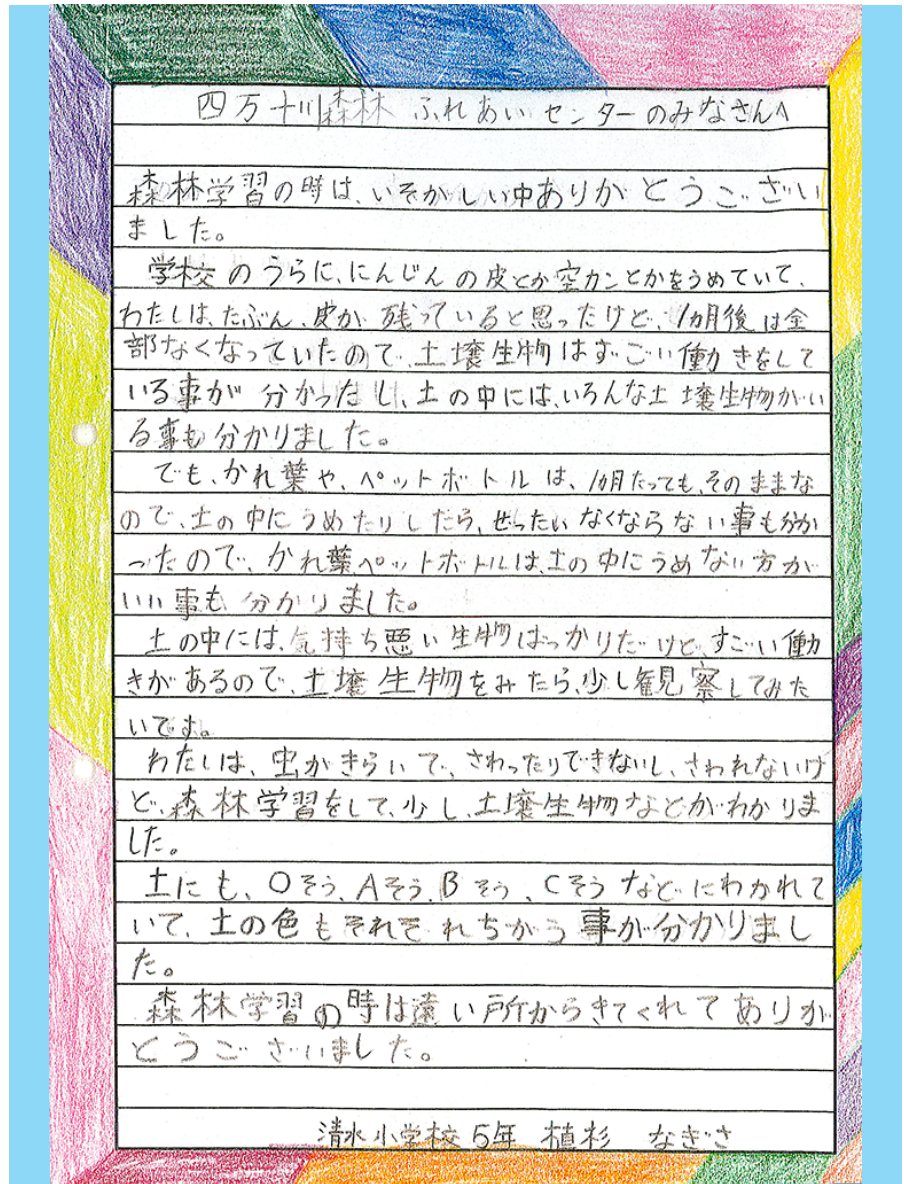
「川」など漠然としたイメージしかなかった子どもたち

も、「森林のはたらき」の

講義後は、地球温暖化や土砂災害を防ぐ働きがあるこ

で集めてきただけ

土壌生物を探している児童



能力を見直したようです。

一ヶ月ほど前に埋めてお

あつて多種多様な虫たちに

いた、「野菜」「枯葉」「ペットボトル」の観察では、先生の「すみませーん、草刈の時に誤って切ってしまいました。」の声と共に真つ二つに折れた「野菜」の看板を目にし、一抹の不安を覚えました。その不安は的中、「野菜」の場所

出会うことができました。普段は見過ごしてしまいがちな小さな生き物をじっくりと観察する機会を得た子どもたちは、気持ち悪いと言いながらも掴んで「毛が生えてる」「ヌルヌルする」と楽しそうに大騒ぎしていました。